Le Contesse　新ブランド

LUNA D’OR　金色に輝く月

『ルナ・ドール』・・

それは遠い昔、王侯貴族のためにスパイス、織物、絹といった貴重な品々を満載し、遠いオリエントからはるばる航海してきた船で賑わっていたヴェネツィアの港をイメージして名付けられた名前です。

華やかなりし往時のヴェネツィアを想像してみてください。運河を滑るように行き交うゴンドラ、仮面舞踏会のために飾りたてられた壮麗な建物、各地から運び込まれた食物が山と積まれた豪華な宴会、そしてワイン！どんなに素晴らしいワインがそこで開けられていたのでしょうか！

ボノット・ファミリーは当時、既に上質なスパークリングワインを生産していました。そしてヴェネツィアの街でまで売りに行っていたのです。陸路でヴェネツィアにアクセスできる唯一の広場“カンポ・サンポーロ”まで馬や荷馬車を乗りつけ、その後は路地を歩いてワインを配達していました。通常、月に一度の配達だったため、ボノット家の祖先ピエトロのヴェネツィア到着は、いつも大変な歓迎を受けていました。

ピエトロがつくる“泡立つワイン”は貴族たちの肥えた舌をくすぐり、女性たちを夢中にさせ、仲間たちと乾杯すればそこには大きな喜びと笑いが生まれたので、“幸せのネクター（不老不死をもたらす神々の酒）”と人々から呼ばれていました。

ピエトロがいつものように配達でヴェネツィアを訪れたある日のこと、いつの間にか日が傾きすっかり暗くなってしまったので、彼は一夜の宿を求めて路地をさ迷っていました。その夜は月が高く昇り明るく輝いていたので、せまい橋の階段を照らすための松明も必要ないほどでした。

すると突然、見事な黒髪の女性が建物の陰から現れたのです。ターコイズ・ブルーのドレスと目もくらむほど見事な金色のシルクのショールを身にまとった彼女の姿に、ピエトロは思わず「なんという美しさ！」とため息を漏らしました。彼女は月明かりに照らされた運河の小道を素早く進んでいき、ピエトロは彼女に追いつこうと足を速めました。こちらを振り向いた時、ショールの陰から覗いた彼女の瞳の魅惑的なことといったら、まさに“東洋のプリンセス”といってもおかしくないほどでした。

やがて港に出た彼女の姿が帆船の中に消えてしまう前に、ピエトロは1本のプロセッコを彼女に手渡しました。それと引き換えに、彼女は輝く金色のショールを残していったのです。

月は好奇心に満ちた光で、一部始終を照らしていました。ピエトロにはその光が、もしかしたら再び彼女と会えるかもしれない、という希望に輝いているように見えました。

ピエトロは彼の造ったプロセッコを、この美しい夢のような出会いに捧げることにし、ルナ・ドール（金色に輝く月）と名付けたのです。

2021.8.31　KIKUCHI